

千葉県感染症発生動向調査情報

2017年 第31週 (7/31-8/6) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		31週	30週	29週	28週
小児科		18	18	18	18
眼科		5	5	5	4
インフルエンザ*		28	28	28	27
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県					千葉県 7/24-7/30 30週
		注意報	7/31-8/6	7/24-7/30	7/17-7/23	7/10-7/16	
			31週	30週	29週	28週	
小児科	RSウイルス感染症	○	13 0.72	7 0.39	7 0.39	0 0.00	100 0.75
	咽頭結膜熱		5 0.28	14 0.78	13 0.72	8 0.44	145 1.08
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		29 1.61	30 1.67	24 1.33	59 3.28	333 2.49
	感染性胃腸炎		64 3.56	77 4.28	69 3.83	106 5.89	451 3.37
	水痘		5 0.28	3 0.17	3 0.17	8 0.44	34 0.25
	手足口病	○★★	162 9.00	152 8.44	145 8.06	137 7.61	901 6.72
	伝染性紅斑		16 0.89	0 0.00	0 0.00	0 0.00	13 0.10
	突発性発しん		9 0.50	11 0.61	16 0.89	16 0.89	71 0.53
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.01
	ヘルパンギーナ	↓★★	133 7.39	158 8.78	112 6.22	136 7.56	545 4.07
流行性耳下腺炎		6 0.33	4 0.22	3 0.17	6 0.33	41 0.31	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		13 0.46	0 0.00	0 0.00	0 0.00	36 0.17
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	1 0.20	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		0 0.00	2 0.40	2 0.40	1 0.25	28 0.80
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	5 0.56
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(5件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	画像診断	結核	女性	50歳代	IGRA検査
結核	男性	60歳代	病原体等の検出等	腸管出血性 大腸菌感染症	男性	30歳代	病原体の検出及び ベロ毒素の確認
結核	男性	80歳代	病原体等の検出				

*第31週は、結核4件(131)、腸管出血性大腸菌感染症1件(7)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第31週のコメント

<RSウイルス感染症> 前週より増加し0.72となった。過去10年の同時期と比べると多い。

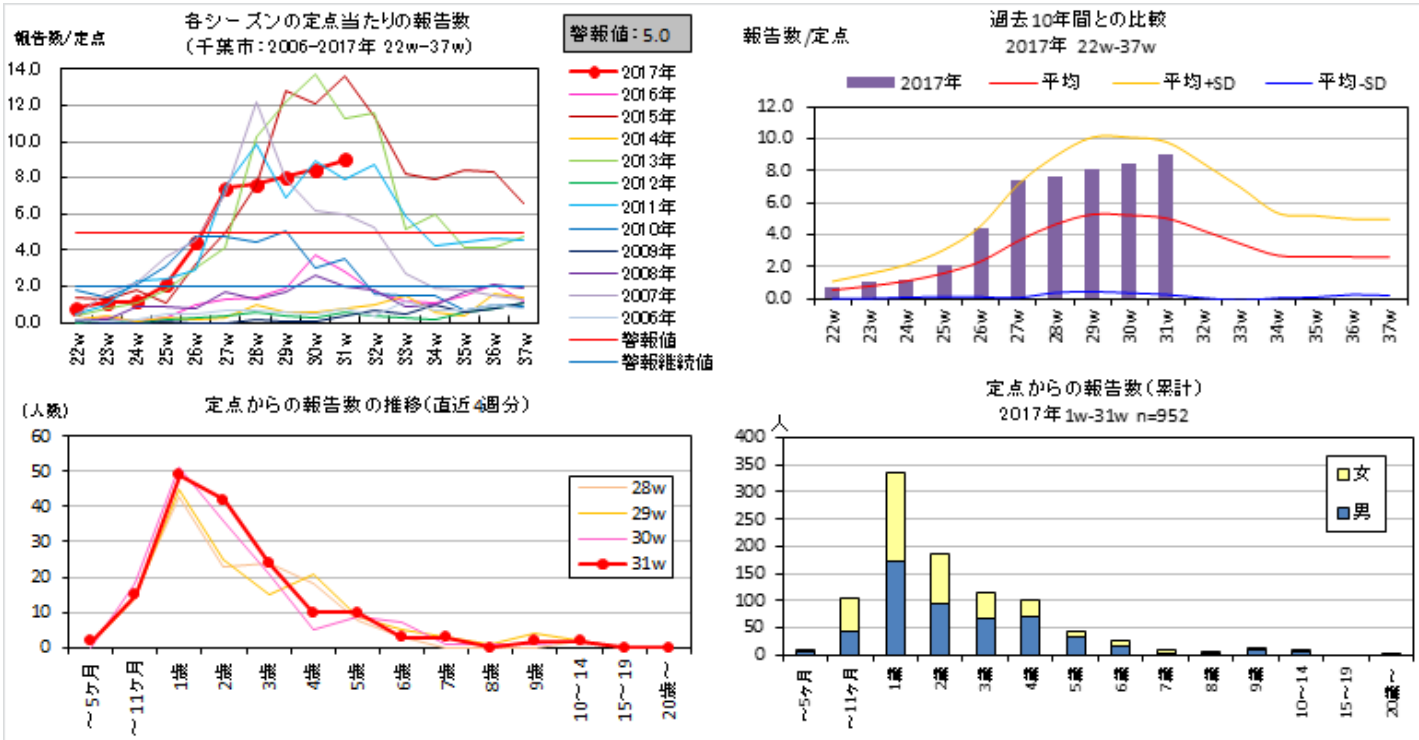
<手足口病> 前週より増加し9.00となった。過去10年の同時期と比べると多い。流行発生警報開始基準値を上回ったまま。

<ヘルパンギーナ> 前週より減少し7.39となった。流行発生警報開始基準値を上回ったまま。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

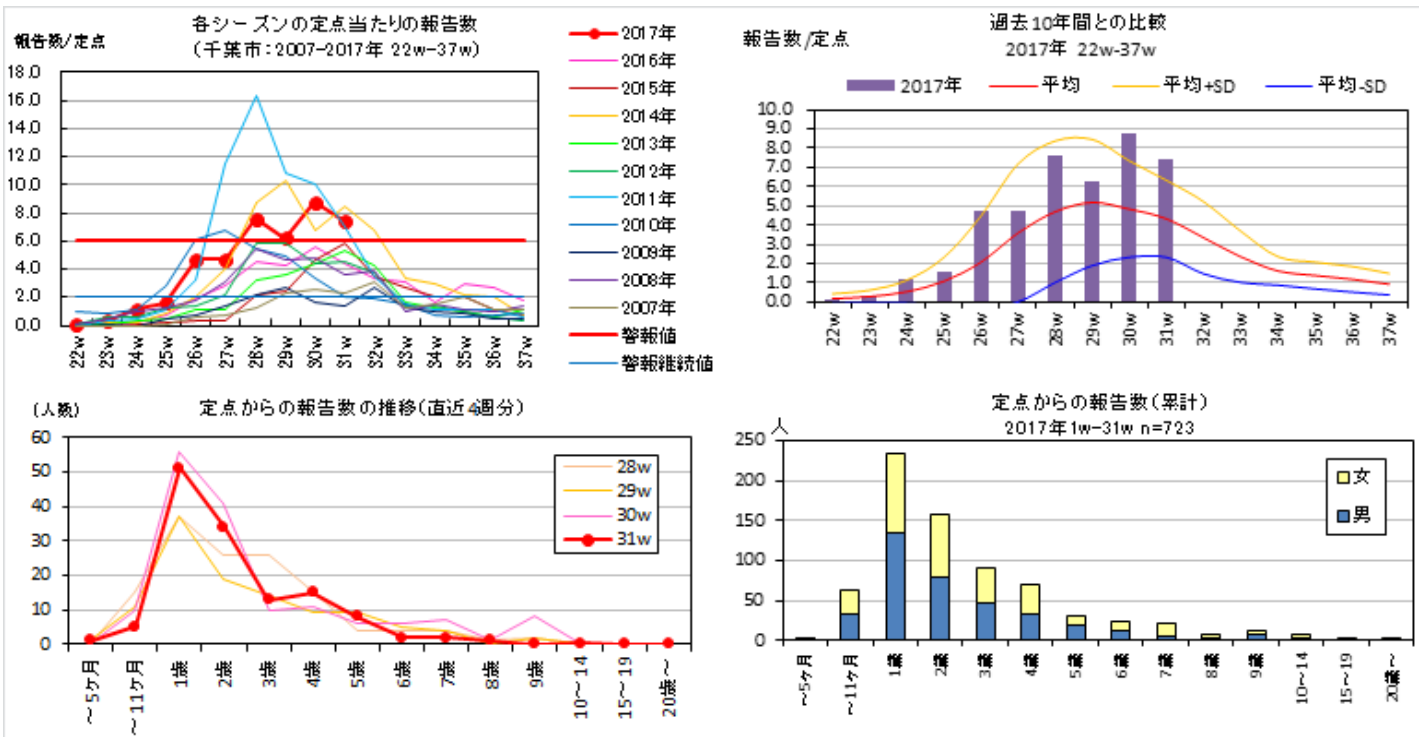
＜手足口病＞

全国レベルの第30週は、過去9年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、福井県、新潟県、石川県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市の第31週は前週より増加し9.00となりました。流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、中央区以外で流行発生警報開始基準値を上回っており、稲毛区(18.7/定点)で最も多く、同区の2歳で最も多く発生報告がありました。2017年第1週から第30週までの累積報告数(n=952)によると、性別では男性が54.1%(515名)、女性が45.9%(437名)で、年齢階級別では1歳(35.1%:334名)、2歳(19.4%:185名)、3歳(12.0%:114名)の順に多くなっています。



＜ヘルパンギーナ＞

全国レベルの2017年第30週は過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では宮崎県、山口県、大分県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の2017年第31週は前週より減少し7.39となりましたが、流行発生警報開始基準値(6.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区(13.7/定点)で流行発生警報開始基準値を上回り最も多く、同区の2歳で最も多く発生報告がありました。他に若葉区(13.0/定点)及び緑区(7.5/定点)で流行発生警報開始基準値を上回っています。2017年第1週から第31週までの累積報告数(n=723)によると、性別では男性が52.1%(377名)、女性が47.9%(346名)で、年齢階級別では1歳(32.4%:234名)、2歳(21.7%:157名)、3歳(12.4%:90名)の順に多くなっています。



<RSウイルス感染症>

全国レベルでは第19週から過去10年の同時期と比べ最多のまま推移しており、第30週も同様で過去10年の同時期と比べると平均+2SDを上回り大きく流行している状況となっています。都道府県別では福島県、鳥取県、沖縄県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の2017年第31週は前週より増加し0.72となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、緑区(1.75/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から2017年第31週までの累積報告数(n=243)によると、性別では男性が56.4%(137名)、女性が43.6%(106名)で、年齢階級別では1歳(35.8%:87名)、6~11か月(30.8%:74名)、0~5か月(19.8%:48名)の順に多くなっています。

